

当キャンペーンにより支援する活動のご紹介

住民の自立を支援して地域をつくる ～地域開発～ — 約 4470 万円 —

Pick Up! バングラデシュでの事業例

■農業訓練センター運営／ヘルスケアセンター運営 —環境と人間に優しい農業を推進—



3000名が参加した有機農業フェア(2013年2月)。バングラデシュの国営テレビでも放映されました。

ほとんどの住民が農業で生計を立てているボダ郡で、有機農業センター(COF)を運営しています。ここでは、植物性農薬や有機堆肥の作り方・使い方の研修や、現地で育ちやすい在来種を作る実演講習などを住民に向けて行っています。「有機農業フェア」は、農薬や化学肥料代がかからず、環境や人体、家計にも優しい有機農業をより多くの人に知ってもらうと同時に、実際に育てた作物を農民が売って収入につなげる場となりました。2013年度も、COFでの日常的な活動に加えて、このようなイベントを通じて、有機農業を推進していきます。



看護師による妊婦の定期健診の様子。BMI値、血圧測定、触診などで、健康状態を正確に把握します。

同じくボダ郡では、ヘルスケアセンターを運営し、月に約100名以上の住民や妊産婦に、基礎医療や妊産婦検診を実施しています。妊産婦検診で、帝王切開など特別なケアが必要な出産を見分けることができるようになり、妊婦たちは安心して出産に臨めます。

※回収キャンペーンの資金は、農業訓練センターやヘルスケアセンターの運営費用として活用させていただきます。その他、住民の自立に必要な教育や保健衛生等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up! ベナンでの事業例

■母子保健センター運営／保健衛生知識の普及 —母子の命を守り、衛生環境を整え病気を予防—



母子保健センターで健診を待つ親子。出産が命がけのものから、安全なものに変わりました。

ベト村では、電気の通っていない自宅での出産が当たり前で、妊娠と出産で多くの命が失われていました。そこで、2010年に母子保健センターの運営を開始。資格をもった助産師や発電設備、妊娠中の健診によって、妊娠や出産時のトラブルに適切に処置できるようになりました。センターは、村の女性に強く支持されており、これからも運営を継続します。

また、ベト村では、住民の衛生に関する知識が乏しく、不衛生な環境で感染症などの蔓延が大きな問題となっていました。そこで、2012年から衛生知識の普及事業を実施。住民を集め、手洗い、トイレ利用、清掃、台所衛生の大切さなどを、イラストや寸劇などでわかりやすく伝えています。週1回日中と、人の集まりやすい夜間にも行うことにしました。また、生ゴミを有効利用した堆肥コンポストや公衆トイレを設置する予定です。



住民を集めて、不衛生な環境がいかに健康を害するかを伝え、手洗いや清掃を奨励。

※回収キャンペーンの資金は、母子保健センターの運営費や衛生啓発活動の費用として活用させていただきます。その他、住民の自立に必要な教育や栄養改善、収入創出等の事業や、こうした支援を行うために調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up! ブルキナファソでの事業例

■自立に向けての現地調査／女性の収入創出



住民に生活状況や事業の成果、要望などを聞き取り調査。それに基づいて計画を立てます。



収穫したタマネギを保管する技術を学び、時期をずらしてタマネギを高く市場で売る、女性グループ。

一計画の策定と収入創出事業の拡大一

HFW は、地域の人々の自立をめざして活動しています。ブルキナファソは支部設立が 2009 年と遅かったものの、栄養改善や収入創出などを実施し成果が出始めました。そこで、次の段階としてより自立を見据えた計画が必要となり、2013 年4～5月に現地調査を実施しました。その住民の声をもとに、2015 年までの計画を策定します。

計画の柱には、収入創出事業の拡大を据える予定です。住民は雨水に頼る農業で不安定な生活を行っているので、不作の場合、食料を購入せざるを得ません。干ばつに備えて灌漑も計画していますが、家計を預かる母親の収入向上も大切です。これまでの対象者は、マイクロクレジット(小規模貸付)によるビジネスで順調に収益を上げているため、対象者を増やすこと、また家畜飼育なども手掛けるよう計画しています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした自立のために必要な調査費用や収入創出のための事業費用として活用させていただきます。その他、住民に必要な教育や、栄養改善、保健衛生等の事業の費用や、こうした支援を行うための各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up! ウガンダでの事業例

■井戸の建設・水質検査／植林

一水質検査で安全な水を。100 万本を超えた植林も継続一



井戸の水を採取して水質を調査。対象となるすべての井戸で水質の悪化が見られ、必要な対策を講じました。



技術指導ボランティアが植樹の仕方を指導します。植えられた木は、緑豊かな大地を作ります。

2002 年から井戸 69 基を建設してきました。2012 年度には、10 年経過した井戸 10 基の水質検査を実施。水質が悪化していた井戸はパイプ交換など対策を講じ、安全な水の供給を確かにしました。2013 年度も継続して水質再検査を実施します。井戸は経年劣化で水質が悪化することがありますが、ウガンダでは再検査をする事例がなかったため、この結果は注目され、県の取り組みにもなりました。また、井戸が長く安全に使用できるためには、住民自身が井戸を管理する体制も強化する必要があります。管理委員会の再選や再研修も、引き続き行ないます。

また環境保護、栄養改善や収入につながる植林は、2007 年度から 100 万本を越えました。2013 年度も住民から選ばれた技術指導ボランティアに苗木の管理や有機肥料の作り方の研修を実施。彼らの指導で、多くの住民がオレンジやマンゴーなどの果樹と建材用のムシジという在来種を育てます。果実はビタミン豊かな食べ物として、また、売れば収入につながる換金作物として、住民の栄養改善と生活に大いに役立っています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした井戸の建設・運営や植林のための費用として活用させていただきます。その他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業や、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

アドボカシー、啓発活動、青少年育成など — 約 4470 万円 —

Pick Up ! 飢餓を生み出す“しくみを変える” —アドボカシー—



ブルキナファソの高級実務者会合で、各国の NGO と提言の内容について、議論を深めた。 © 動く→動かす



バングラデシュで、住民から首相あての要望書を託された農業官。集まった住民 250 名と政策対話も行った。

他団体とも協力して、政府や国際機関に飢餓の終わりに効果的な行動を提言し、飢餓を生み出す社会構造の転換をめざしています。2013 年6月に開催された第5回アフリカ開発会議(TICAD V)*に向けては、提言文書の作成並びに会議の運営や進行などに中心的な役割を果たしました。今後は 2015 年までに飢餓の撲滅などを国際社会が約束したミレニアム開発目標の評価や、その後の開発目標の策定への参画も積極的に行う予定です。

バングラデシュ支部では、安全な農業と食について全国へ広めるための NGO のネットワークを主導しています。また HFW が支援する有機農家たちが、有機農業の普及のための政策要望書を首相宛に提出。このように、住民自身が提言活動ができるようになるようサポートもしていきます。

*アフリカの開発をテーマとする国際会議。日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)及び世界銀行等と共催。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国でのアドボカシーの費用として活用させていただきます。この他、アドボカシーを行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

Pick Up ! 飢餓を取り巻く現状への“気づきをつくる” —啓発活動—



フードロス・チャレンジ・プロジェクトの立ち上げイベント。HFW、国際機関、企業、行政が取り組みを報告。

日本では私たちの暮らしや食生活が世界の飢餓とつながっていることを伝え、解決に向け行動を起こすことを呼びかけています。海外の活動国では現状をあきらめずに立ち上がり、ともに飢餓なくすために行動することを訴えています。

食料ロス・廃棄問題の解決をめざす運動「フードロス・チャレンジ・プロジェクト」を実行委員として始動させました。生活者、起業、行政などさまざまな立場の人たちと連携し、立ち上げイベントの開催や、生産から消費までの食品の流れをたどる現場調査など、さまざまな活動をしています。

また「食料への権利」研修をバングラデシュで行われた事務局長会議で行いました。各国に持ち帰った事務局長たちは、各国で住民に向けての研修を行っています。ウガンダでは、事務局のスタッフが、住民にわかりやすく伝えるためのイラストを作成。わかりやすいと好評です。それぞれの国で、工夫を凝らした取り組みが始まっています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国での啓発活動、イベント開催の費用として活用させていただきます。この他、活動を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。



ウガンダ支部職員が描いたイラストでわかりやすく「食料への権利」について住民に教えています。

Pick Up! 飢餓をなくす“若い力を育てる” — 青少年育成 —



演劇を通じて、小学生に衛生の大切さを教える YEH ブルキナファソメンバー。HFW は、各国で YEH の活動をサポートしている。



日本では9地域約110名で活動。国内会議では各地域での活動報告や、今後の活動について、3日間議論しあいました。

未来の担い手となる若者は、飢餓の終わりの鍵となる大きな可能性を秘めています。HFW は、世界5カ国で活動する青少年組織ユース・エンディング・ハンガー(YEH)を通じて若者の活動をサポートしています。

各国の YEH は、若者の収入創出や若い世代を対象とした啓発活動などの活動のほか、HFW が行う活動に参画しています。

また、それらの活動についての話し合いや研修による能力強化のために、海外では年1回、日本では年2回、国内会議を開催しています。2013年8月には、各国の YEH の代表が東京に集結する会議を開催します。各国の情報を交換しながら、飢餓問題についての知識を深め、若者らしい活動の展開や組織運営について議論しあい、実効力のある取り組みに向けて話し合う予定です。

※回収キャンペーンの資金は、こうした YEH による開発事業や啓発活動の費用に活用させていただきます。その他、青少年の活動をサポートするために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にも充てさせていただきます。

活動をより効果的に — 組織運営 —

各国での活動を着実に進めるため、組織力強化を進めています。日本本部では、専門技術をいかしたボランティアやインターンによって業務の質を向上させ、限られた資金で効果的に活動を推進しています。今後は国内外の職員の専門性や語学力を高める研修を行い、さらなる業務の効率化を進めます。2012年度には、農村開発の専門性をもつ役員を現地に派遣し、活動の評価や住民参加型開発について指導しました。ほかにも、バングラデシュ、ウガンダ支部事務局長に向けて、組織運営やリーダーシップに関する研修を日本で行いました。2013年度は、ベナン、ブルキナファソ支部事務局長に向けて行う予定です。

HFW では、長年の活動を通して培ってきた経験をもとに、国際協力 NGO 全体への貢献も行っています。多くの団体が加盟するネットワーク NGO とともに、アカウントビリティ(説明責任)向上やメンタルヘルス対策など、他団体の運営能力向上のための講演、研修等に人材を提供するなどの協力を行います。

※回収キャンペーンの資金は、こうした能力強化のための研修費や会議の開催費など、運営費の一部にも充てさせていただきます。



バングラデシュの事務局長会議では、各国の支部事務局長が集まり、議論を深めました。



NGO のためのメンタルヘルス対策講座で、HFW の事務局長が講演を行いました。



事務所に届く書損じハガキ等のカウント作業には、多くのボランティアが活躍しています。

* 前述の4カ国での地域開発に 35%(約 4470 万円)、アドボカシー・啓発・青少年育成などの事業(国外・国内)に 35%(約 4470 万円)、封筒製作費や料金受取人払いなどの回収キャンペーン経費に 30%(約 3832 万円)を使わせていただきます。